九重・星生山ハイキング

【報　告　者】M本
【日　　時】2009年５月２４日（日）　　【天　候】晴れ
【参　加　者】Ｓ崎　M本

≪コースタイム≫

大曲駐車場 9：20－星生山 10：15－天狗ヶ城 10：55－中岳 11：05－
－坊がつる 11：50－三俣山南峰 12：55－三俣山本峰 13：05－大曲駐車場 13：55

≪　報　　告　≫

GW に何の運動もせずに過ごしてしまった為、無性に歩きたい衝動に駆られ九重ハイキングに参加、初心者向きのハイキングとの事なので、のんびり歩くに違いない、久々に気合を入れるため、ボッカでもしてみようか等と思っていたらＳ崎さんから一通のメールが、今回、二人で行くことになったので少し距離を伸ばします、なるべく軽装でお願いします、との内容でした。この少しって、一体どれくらい？軽装と言う言葉も気になる。不安と期待を抱きながら、その日がやってきた。

玖珠から四季ロードを通り九重を目指す、広大な草原地帯に永遠と延びる道、このコースを通るだけでも心地よい気分になる。ソロテントについて議論し合いながら
9：00 大曲駐車場に到着、ミヤマキリシマのシーズンのせいか駐車場は満車状態で、道路脇には路駐車両がずらりと続く、止められそうもない、と、諦めかけたその時だった、前方に見えるちょうど車一台分のスペースを我々は見逃さなかった、素早い縦列駐車で駐車完了、偶然にも登山口の真ん前、そこで登山シューズに履き替えているとＳ崎さんが取り出した赤いシューズ、これは普段使っているトレイルランニング用のシューズらしい、まさか走るつもりなのでは？（あせる）「僕は、マラソン系スポーツは全然ダメなんですよねぇ～！」と、さり気なくアピールしたりする。

天気予報では曇り後雨となっていたのだが、見事な晴れ、多少雲が多いものの青空が広がり、九重連山の輪郭もくっきり見える。その横を爆音とともに走り抜ける多くのツーリングライダー達、次第に気分ものってくる。

いよいよ登山口から登り始める、狭くて滑りやすい黒土、おまけに思いっきりの急斜面、50 メートルくらい登ったところで呼吸が乱れ始める、スタートはいつもこんな具合で調子が悪い、しばらく進むとミヤマキリシマの群生地に出た、まだ、5 分咲きくらいだろうか、平治岳の満開予想が来週くらいになっていたが、再来週くらいになるのではないかと思われる、男二人だけとなるとＳ崎さんの歩くペースが容赦なく速い、もう、この時点でミヤマキリシマの観賞なんてどうでもよくなっていた、今日のテーマは最後までこのペースに着いて行く事、もともと歩きたくて参加したのだし、こん

な風にガンガン突き進むのも楽しく思えてきた。

気が付くと星生山山頂に到着していた、360 度見わたせる景色に九重連山の地形や配置がよく分かる、下方には煙が立ち込める硫黄山が見える、この硫黄山と煙が九重を引き立てる大事なポジションの様にも思える。それから、中岳を通過しガレ場地帯を下り続け坊がつるに出た、そこで、しばらく休憩し昼食を取り、いよいよ坊がつるから三俣山への直登コース、このコースは以前から登ってみたくて、気になっていたコースであり、このコースを登れるだけでも今回の山行のよい収穫でもある。法華院から雨ヶ池へ通じる自然歩道の途中に小さく小積まれた二つのケルンがあり、ここが三俣山直登コースの入り口で、こんな所に従走路があるなんて誰も気付かないのじゃないかと思えるくらいにひっそりとある、下から三俣山を見上げれば急な斜面が真直に伸びている、Ｓ崎さんによると「いや～、大した事ないよ」と言うが、鵜呑みにしない方がいいだろう。誰もが登らないであろうこのルート、藪と化していて殆んど藪こぎ状態で進んでいく、ここに来て更にＳ崎さんのペースが上がる、初めて見るスーパーサイヤ人の力、その戦闘力の高さを思い知る。四分の一くらい登ったところで展望の良いところに出た、でも景色なんてどうでもよかった、気になるのは上方のまだまだ続く直登、衰えないペース、初めて宝満山よりキツイとおもった。そんなこんなで、へとへとになりながら登りきった三俣山も良い経験となった。あとは大曲駐車上目指してラストスパートの下山、たまには、こんな山行も楽しいなと思いまいした。